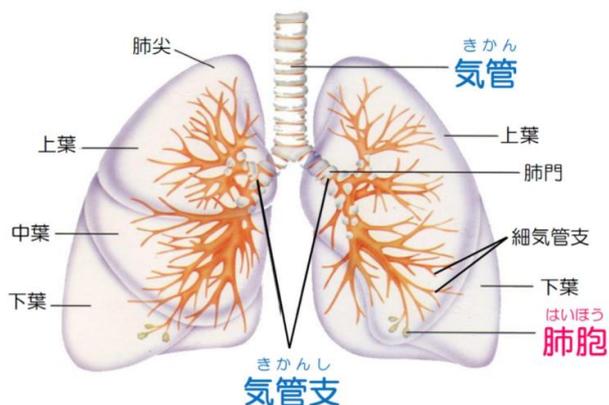
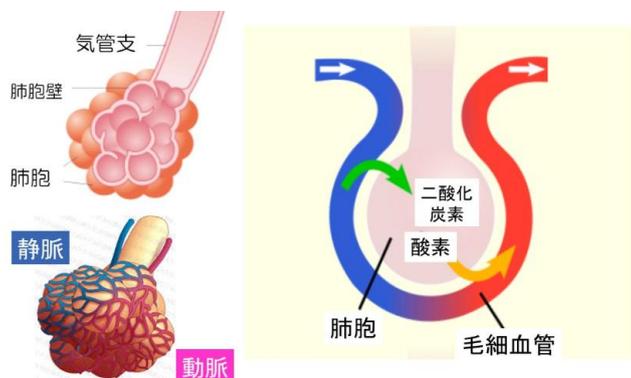


週刊 タバコの正体



なかの呼吸器アレルギークリニックHPから



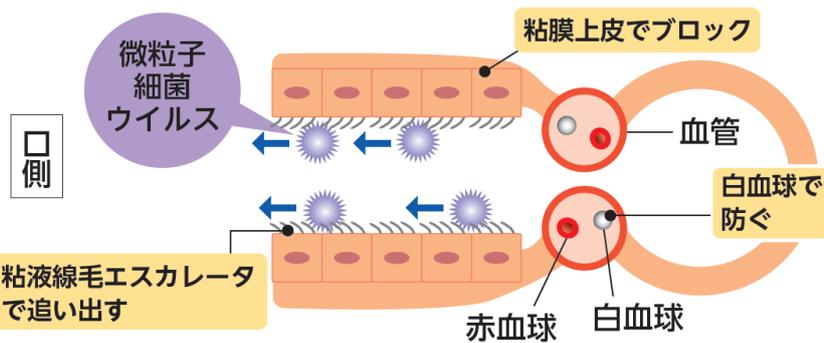
タバコを吸うと肺に煙が入ります。肺は左図にあるように空気中の酸素を取り込み、二酸化炭素を排出する生命維持に必須な「呼吸」を担う臓器です。そんな重要な肺に有害成分が一杯含まれるタバコの煙を入れてしまっただけでは、身体を大切にできません。

そこで、今回は肺の働きを少し紹介しましょう。口や鼻から入った空気は太い気管と気管支を通り、いくつにも枝分れた肺胞に届きます。肺胞は毛細血管に囲まれていて、ここで酸素が血液に取り込まれます。

ところで、空気には目に見えない細菌やウイルスなどを含む微粒子がたくさん存在しますが、私たちの肺には、そんな異物を除去する機能が備わっています。

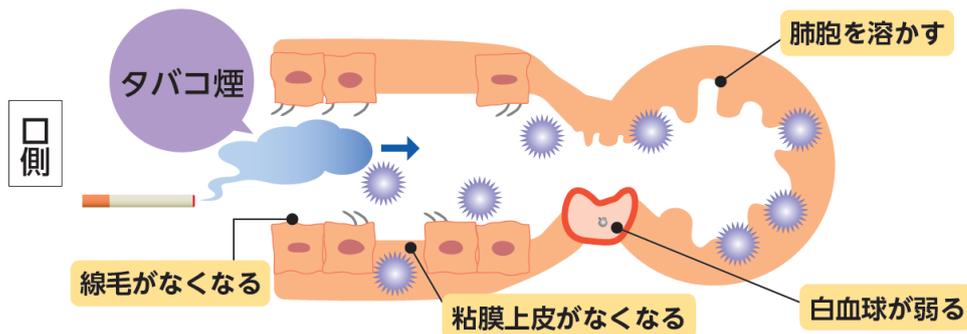
下の図は肺胞の断面図ですが、内部の粘膜にある線毛がゆらゆら動いてエスカレーターのように異物を追い出すようになっています。ところが、タバコを

気管支を微粒子・細菌・ウイルスから守る仕組み



長期間吸い続けると煙に含まれる有害成分によって、この粘膜上の皮膚と線毛がなくなってきます。すると、肺に入り込んだ細菌やウイルスを追い出せなくなるのです。

喫煙・受動喫煙で気管支が傷つく仕組み



喫煙を続けると知らない間に肺はこんなダメージをうけてしまいます。自分の身体を大切にするには、タバコに手を出してはいけません。

産業デザイン科
奥田 恭久